

1.概要

箕面市では平成27年4月から教育課程特例制度を活用し、箕面市立中学校の全学年において、「英語コミュニケーション科」を設定し、全ての学年で毎日英語に触れる取り組みを行っています。

市内の中学校では、年間140時間（週4時間）の外国語科（英語）に加えて、総合的な学習の時間から年間30時間削減し、「英語コミュニケーション科」の授業時数に充てています。英語コミュニケーション科を週に1時間程度設定することで、毎日英語に触れられる環境作りを行うことができます。特別の教育課程を実施することで、9年間を通して子どもたちが毎日英語に触れられる環境作りを行っています。

2.学校関係者からの意見

箕面の生徒は、小学校時から英語に慣れ親しんでいることは確かである。大きなメリットと共に、すでに英語に苦手意識をもって入学する生徒も多く、評価されることに重きをおかれると、今までの差が更に大きくなり、苦手意識に拍車がかかる生徒もいる。やはり、小学校と中学校の繋ぎは、もっと綿密に理論的に行っていくべきだと考える。英語Cは、魅力的な授業ではある。生徒たちも興味を持って、楽しんで授業を受けている。しかし、ALTの人間性と授業プラン構築力によることが大きいことは事実である。

3.今後に向けて

生徒たちは、『聞くこと』『話すこと』は比較的好きではあるが、学年が上がるにつれ、それを可能にする英語の基礎学力がかけがえのないものとなる。書くことに対する抵抗は多くの生徒が持っているので、それは、レギュラーの授業でも、英語Cの授業でも、工夫が必要である。